

こころに届く道徳教育を共に語り合う研究会



令和元年5月22日（水）教育会館中会議室で今年度の道徳教育研究会および講演会が行われました。

私は、その会の中で、流れ落ちそうになる涙を、なんとか止めなければと苦慮していました。本会の会長である二木栄次先生の挨拶からすでにその戦いは始まっていました。

二木先生は、坂村真民の「もっとも美しかった母」の詩を題材に、ご自身の生まれ育ちから、お母様への思いを率直な言葉で語られました。「愛情いっぱい育ててくれた母には感謝の気持ちでいっぱいです」と締めくくったお言葉に深い思いを感じ、涙があふれました。



南信教育事務所指導主事の白田瑞希先生をお迎えしての講演「私が出会った道徳」では、様々な資料を使ってお話が進みました。白田先生ご自身が新卒1年目で出会った資料「お母さんの請求書」で、はっとさせる展開で子ども達の表情が変わり、「道徳って楽しい」と感じたことをきっかけにしながらも、様々な学級経営の場面で道徳に対する意識や姿勢が変わり、子どもにしっかり心を乗せることができただろうか？自分を飾って授業のテクニックにおぼれていなかったか…自分も自分と向き合ってそれで子どもと向き合っていかなければ…と感じた思いを語ってくださいました。中でも、ご自身の深い後悔を題材にされた自作の資料には、白田先生のメッセージを感じとり、胸が熱くなりました。最後に「教師として、担任としての教育的愛情、AIに勝る愛をもって、子ども達の道徳性の成長に願いを持ち、熱い期待をかけ、励まし、共に悩み、共に喜び、

そうやって培われて強化された信頼関係があって初めて、道徳性は養われていく。」と結ばれました。私は、何度も何度も涙があふれるのはなぜだろうと思いました。こんな研究会は今までなかったと静かに思っていました。お一人お一人の先生方の生き方、教育に対する熱い思いがこんなにも心を打つことに感動とこれからの道徳教育の可能性を強く感じました。本会は、そのように熱い思いをもった先生方で運営されています。今後は夏季の研究会等が開催されます。どうか、多くの先生方に参加していただき、感動を分かち合い、こころに響く道徳教育について共に語り合っていきたいと思えます。

駒ヶ根市立東中学校 教諭 小山美香子